

**AIG、事業再編関連費用により、  
2010年第3四半期の自社帰属純損失は24億ドルと公表、  
継続事業に属する保険事業の収益は引き続き安定**

2010年11月5日（ニューヨーク発）：AIGは、2009年第3四半期が4.55億ドルの純利益（希薄化後、普通株式1株当たり0.68ドルの利益）を計上したのに対し、2010年第3四半期は、自社に帰属する純損失が24億ドル（希薄化後、普通株式1株当たり17.62ドルの損失）になったと公表しました。継続事業に属する保険事業の利益は21億ドルで引き続き安定しました。

2010年第3四半期の純損失は、主に以下の要因によるものでした。

- 事業再編関連費用 45 億ドル。内訳は以下のとおりです。
  - 繰延税金資産（DTA）の裏付けとなっている基本的な資産価値の純減に関連した DTA の評価引当金 13 億ドル
  - 以前開示したとおり、進行中のアメリカン・ジェネラル・ファイナンス・インク（AGF）の売却に関連する損失 19 億ドル
  - 以前開示したとおり、進行中の AIG スター生命保険株式会社（AIG スター）と AIG エジソン生命保険株式会社（AIG エジソン）の売却に関連するのれん代減損費用 13 億ドル
- 前払い委託資産の償却 12 億ドル。これには、主に以前発表したインターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）への AIG からの融資返済収入を用いた、ニューヨーク連邦準備銀行（FRBNY）与信枠の返済と利用可能残額の削減 46 億ドルによる、正味前倒し償却費用 7.62 億ドルが含まれます。
- ILFC の特定の機体の減損費用 4.65 億ドル。これは、将来のリース料の下落、航空機の売却およびその可能性に関連する減損など、航空業界の将来の回復に関する経営陣の見通しを反映しています。
- これらの費用は、繰延税金評価引当金に関連した 14 億ドルのタックス・ベネフィットによって一部相殺されています。他の包括的利益の構成要素に関連した繰延税金負債の増加によって総繰延税金資産が減少したため、以前は経費として計上されていた評価引当金の一部が減算となりました。

### 第3 四半期業績

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	2010年	2009年	希薄化後1株当たり*	
			2010年	2009年
AIGに帰属する純利益(損失)	\$ (2,395)	\$455	\$ (17.62)	\$0.68
<b>修正純利益(損失) 算出のために、損失を加えて利益を控除：</b>				
正味実現キャピタル・ロス、税引き後	(464)	(798)		
事業売却の純利益(損失)、税引き後	4	(773)		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益、税引き後	121	335		
非継続事業の純利益(損失)、税引き後**	(1,856)	68		
<b>AIGに帰属する修正純利益(損失)</b>	<b>\$ (200)</b>	<b>\$1,623</b>	<b>\$ (1.47)</b>	<b>\$2.42</b>

\* 純利益を計上した期間においてシリーズCの優先株主への純利益(損失) 帰属後の普通株主に帰属する純利益(損失) に基づき算出。

\*\* 非継続事業とは、アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー (ALICO)、南山人寿保険 (ナンシャン)、AGF、AIGスター、AIGエジソンを指し、進行中のAGFの売却に関連する税引き後損失12億ドル、進行中のAIGスターおよびAIGエジソンの売却延期に関連した税引き後のれん代減損9.46億ドルを含む。

### AIGに帰属する修正純利益を構成する第3四半期業績の要約

(単位：百万米ドル)

	2010年	2009年
継続事業に属する保険事業の税引き前営業利益：		
損害保険事業	\$ 1,072	\$ 719
北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業	978	1,207
小計 - 継続事業に属する保険事業	2,050	1,926
金融サービス事業	(81)	1,238
北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業 (主にAIA)	534	409
FRBNY への支払利息および償却費*	(1,319)	(1,252)
FRBNY が保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い優先受益権	(388)	-
第三者債務の支払利息	(461)	(510)
その他	85	293
法人税等	(620)	(481)
<b>AIGに帰属する修正純利益(損失)</b>	<b>\$ (200)</b>	<b>\$ 1,623</b>

\* 主にILFCの債権処理による収入を用いたFRBNY 与信枠に基づく借入残高の削減46億ドルによる、7.62億ドルの前倒し償却を含む。

AIGは法人税等を完全に認識しきれないため、今期の活動の連邦法人税効果は繰延税金資産にあたる評価引当金の変動でほぼ相殺されていることから、別途明記していない限り、本プレスリリースで言及する値はすべて税引き前の値です。

ALICO、AGF、AIG スター、AIG エジソンの売却を発表した結果、現在これら4社の業績は非継続事業として計上されています。また以前発表したナンシャンの売却は台湾規制当局の承認を得られませんでした。AIG はナンシャン売却の次の機会をうかがっており、

今後 12 ヶ月以内に売却は完了すると考えています。このため、引き続きナンシヤンは非継続事業として計上されています。また、それに応じて比較対象期間の値も修正し、これらの会社の業績は上表の「第 3 四半期業績の要約」にも算入されていません。

非継続事業の税引き前損失は25億ドルに達し、これには進行中のAGFの売却に関連する損失、先に述べたAIGスターならびにAIGエジソンののれん代減損費用が含まれています。これに対して前年同期は3.12億ドルの税引き前利益でした。

継続事業に属する保険事業の税引き前利益は、前年同期が 19 億ドルであったのに対し、2010 年第 3 四半期は 21 億ドルでした。

### 損害保険事業

チャーティスの 2010 年第 3 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益は、前年同期が 7.19 億ドルであったのに対し、11 億ドルとなりました。業績の主な要因となったのは、引受利益の改善です。2010 年第 3 四半期の業績には、以前発表した、日本の上場保険会社である富士火災海上保険株式会社（富士火災）を連結対象としたことが反映されています。

コンバインド・レシオは、前年同期が 105.2 であったのに対して、2010 年第 3 四半期は 99.3 となりました。異常災害損失を除くと、コンバインド・レシオは前年同期が 104.5 であったのに対して、当期は 98.4 と 6.1 ポイント改善しました。チャーティスの損害率は 3.5 ポイント改善しました。これは、前年同期には世界的なクレジット危機による請求に関連した 2 億ドルの損失が計上されていたためです。富士火災の連結対象化によって、経費率は前年同期から 1.5 ポイント改善して 28.2 となりました。

当四半期、チャーティスは、前年の不利な変動により正味支払備金の割引として 2.08 億ドルを計上しました。これに対して前年同期は 2.46 億ドルでした。2010 年の不利な変動 1.22 億ドルには、本年中に記録されたアスベストに関する請求と、2007 年にカリフォルニア州で発生した山火事による 1 件の大規模な請求が含まれています。

世界全体での正味収入保険料は、前年同期比で 7%増加し、86 億ドルとなりました。富士火災を除くと、世界全体での正味収入保険料は 4%低下しました。これは、厳しい経済情勢により、料率のエクスポージャーや激しい競争下にある損害保険市場の影響が及んだためです。チャーティスは、特定の分野に対する積極的なエクスポージャーを管理するためにリスク・マネジメント・イニシアチブを引き続き推進しており、市場の料率の確定が困難な分野における料率規律は継続されています。

### 北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業

サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの 2010 年第 3 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益（損失）は、前年同期の 12 億ドルの利益に対して、9.78 億ドルの利益となりました。利益が減少した要因は、パートナーシップからの正味投資利益の減少、金融受け皿会社 (Maiden Lane II) における留保持ち分の公正価値の変動による 9,400 万ドルの減少、繰延保険獲得費用 (DAC) の増加、さらに前年同期の正味実現キャピタル・ロス 14 億ドルに対して、2010 年第 3 四半期には正味実現キャピタル・ゲインが 2,000 万ドルになったことによる販売促進費の償却などです。実現キャピタル・ゲイン（ロス）の改善の要因は、主に一時的でない減損費用の減少、外国為替取引控除後の金利デリバティブおよび通貨デリバティブの公正価値の減少などです。

2010年9月30日現在の運用資産は、前年同期比7%増の2,446億ドルに拡大しました。これは、2009年後半から2010年9月末にかけて株式市場がプラスのリターンを記録し、債券相場が上昇したためです。収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期比2%増の計44億ドルとなりましたが、これはグループ・リタイアメント商品、個人変額年金の販売が増加したためです。個人変額年金の販売は、競争力のある商品の拡充、多数の主要ブローカー/ディーラー事業体による販売回復、およびホールセール事業体の生産性向上により増加しました。一方、個人定額年金預かり資産は減少しましたが、これは主に2010年は低金利環境によるものです。

解約がより通常に近い水準に戻ったため、グループ・リタイアメント商品、個人定額年金、個人変額年金の解約率は前年同期と比べて改善しました。生命保険の販売は、独立代理店やキャリア・エージェントを通じた一部の変額ユニバーサル生命保険商品の販売が増加したことから、前年同期と比べて大幅に増加しました。アメリカン・ジェネラル・ライフ・アンド・アクシデント・インシュアランス・カンパニーは販売の生産性を高めながら、引き続き新たな代理店を採用しています。

### 北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業

ALICO、ナンシャン、AIG スター、AIG エジソンを非継続事業に分類した後、AIG の残りの北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業は、AIA およびアメリカン・インターナショナル・リインシュアランス・カンパニー・リミテッド (AIRCO) を通じて行われています。

AIA を中心とする北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業の2010年第3四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前税引き前営業利益は、前年同期4.09億ドルに対して、5.34億ドルとなりました。

収入保険料およびその他の売上は、前年同期の22億ドルに対して、26億ドルに増加しました。この要因は、プラスの為替換算効果と、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、中国での継続率の向上による保有契約の増加にあります。

2010年10月29日、AIG は AIA 株 80.8 億株の新規株式公開を完了し、それによる総収入は 205.1 億ドルとなりました。これにより、AIG の AIA 発行済み株式の保有比率はおよそ 33% となりました。

### 金融サービス事業

AIG の金融サービス事業部門は、ILFC ならびに、AIG ファイナンシャル・プロダクツ・コープ (AIGFP) を通じて商業用の航空機・設備のリース、資本市場等に関連した様々な事業を手掛けています。2010年第3四半期に AGF を非継続事業に分類した後、AIG の残りの消費者金融事業は非中核事業としてその他の事業に計上されています。

2010年第3四半期に AIG の資産運用グループは、金融サービス事業のキャピタル・マーケット部門から非デリバティブ資産・負債の運用業務を引き継ぎました。これらの資産・負債は、マッチド・インベストメント・プログラムに沿ってスプレッド・ベースで運用されています。したがって、主に信用評価の調整損益であるこれらの資産・負債に関する損益は、資産運用事業のダイレクト・インベストメント事業の一部として AIG のその他の事業に計上されています。前期の値は、今期の表示に合わせて修正されています。AIG ファンディング・インクから AIGFP への融資に関連した会社間持ち分は、その他の事業からキャピタル・マーケットには割り当てられていません。残りのキャピタル・マーケットのランオフ・デリバティブ事業は、引き続きキャピタル・マーケットの一部として金融サービス事業に計上されています。

2010年第3四半期、金融サービス事業部門は、前年同期の12億ドルの営業利益に対して、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業損失およびヘッジ会計処理の要件を満たしていないヘッジ活動の効果、8,100万ドルを計上しました。キャピタル・マーケットの営業利益は、航空機リースの損失で相殺されました。

キャピタル・マーケットは、AIGFPの事業とポートフォリオの段階的縮小に取り組んでおり、2010年第3四半期の営業利益は、前年同期の8.91億ドルに対して、1.48億ドルとなりました。キャピタル・マーケットは、2010年第3四半期に、スーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオに関連して、1.52億ドルの未実現時価評価益を計上しました。これに対して前年同期には9.59億ドルの未実現時価評価益を計上しました。クレジット・スプレッドの変動が、主に金利および通貨デリバティブの評価額に及ぼした正味の効果で、キャピタル・マーケットには不利な影響がもたらされました。この効果は、前年同期の2.33億ドルに対して、当期は6,300万ドルとなりました。

#### AIGFPの清算状況:

- AIGFPのデリバティブ・ポートフォリオの想定元本は、2009年12月31日時点の約9,407億ドルから46%減少し、2010年9月30日時点では約5,058億ドルとなりました。これには会社間デリバティブ137億ドル、スーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ878億ドルが含まれています。
- AIGFPはトレードポジションを約5,900減らし、2009年12月31日時点の約16,100から、2010年9月30日時点では約10,200となりました。これには、ダイレクト・インベストメント事業に管理が移管された非デリバティブ資産・負債のポジション約4,500が含まれています。
- AIGFPならびにダイレクト・インベストメント事業が提供している正味担保金額は、2009年12月31日時点の159億ドルから減少し、2010年9月30日時点では123億ドルとなりました。

ILFCは、前年同期が3.65億ドルの営業利益を計上したのに対して、2010年第3四半期は2.18億ドルの営業損失を計上しました。2010年第3四半期に、ILFCは、特定の航空機に関連して4.22億ドルの資産減損損失を計上しています。これは、航空機業界の今後の回復に関する経営陣の見通しを反映しています。特定の種類の航空機に対する需要が減少していること、燃料コストの変動性が高まっていること、さらに他のマクロ経済条件の変化などの要因が相まって将来リース料の下落が予想されるためです。さらにILFCは、航空機の売却に関連して2,200万ドル、また今後の航空機売却の可能性に関連して2,100万ドルの資産減損損失を計上しました。支払利息の増加、整備引当金の増加も第3四半期の業績悪化の要因となりました。2010年9月30日現在、ILFCは2011年から2019年に受け渡し可能な、新たな115機の航空機の購入を確約しています。購入価格合計は135億ドルに達すると見積もられますが、その大部分の支払期限は2015年以降で、2011年中の支払い額は2.82億ドルとなります。

#### その他の事業

AIG傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション（UGC）の税引き前損益は、前年同期の4.61億ドルの損失に対し、2010年第3四半期は1.24億ドルの損失を計上しました。これは、第一抵当権付および国際商品の新規に報告された延滞件数の減少、既存の第一抵当権付および国際商品の不良債権処理の改善、第一抵当権付の請求の取消の増加、一部の第二抵当権付保険契約のストップ・ロス・リミットの認識によるもので、プライベート学生ローンの延滞件数の増加により一部相殺されました。

2010年第3四半期の資産運用事業の業績は、前年同期の2.33億ドルの営業損失に対して、2,700万ドルとなった正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前の営業損失を含んでいます。この営業損失は、投資不動産の減損損失の縮小が、ダイレクト・インベストメント事業における不利な信用評価の調整により一部相殺されたためです。2009年に機関投資家向け資産運用事業は、のれん代減損と連結ウェアハウジング投資の損失により大幅な損失を出しましたが、2010年にはこのような損失はありませんでした。

FRBNY 与信枠に関する支払利息ならびに償却は、2010年第3四半期に13億ドルとなり、前年同期とほとんど変わりませんでした。この要因は、定期的な償却額の減少が、主に ILFC の債権決済による収入を利用して FRBNY 与信枠の債務および利用可能残額が46億ドル減少したのを受けた前倒し償却で相殺されたことによるものです。

金融受け皿会社（Maiden Lane III）における持ち分の公正価値は、前年同期の12億ドルの増加に比べて、2010年第3四半期には3.01億ドルの増加となりました。

未配分の本部経費は、前年同期の1.28億ドルから増加して2.39億ドルとなりましたが、これは主に従業員の報酬制度に関連する訴訟引当金を反映したものです。

2010年9月30日現在のトータル・エクイティは、2009年12月31日現在の981億ドルに対して106億ドル増の1,087億ドルに拡大しました。

#### 2010年1月-9月業績

（単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く）

	2010年	2009年	希薄化後1株当たり*	
			2010年	2009年
AIGに帰属する純損失	<b>\$(3,268)</b>	\$(2,076)	<b>\$(4.88)</b>	\$(24.92)
<b>修正純損失算出のために、損失を加えて利益を控除：</b>				
正味実現キャピタル・ロス、税引後	<b>(1,177)</b>	(3,590)		
事業売却の純利益（損失）、税引後	<b>21</b>	(928)		
富士火災海上保険のバーゲン・パーチェス・ゲイン、税引後	<b>332</b>	-		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益（損失）、税引後	<b>(88)</b>	923		
非継続事業の純利益**	<b>(4,364)</b>	967		
<b>AIGに帰属する修正純利益</b>	<b>\$2,008</b>	\$552	<b>\$2.99</b>	\$0.82

\* シリーズCの優先株主への純利益（損失）帰属後の普通株主に帰属する純利益（損失）に基づき算出。  
 \*\* 非継続事業とは、ALICO、ナンジャン、AGF、AIGスター、AIGエジソンを指し、ALICOに配分されていたのれん代減損費用33億ドル、進行中のAGFの売却に関連する税引き後損失12億ドル、進行中のAIGスターおよびAIGエジソンの売却に関連する税引き後のれん代減損9.46億ドルを含む。

2010年第3四半期について、AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシエは次のようにコメントしました。「大変喜ばしいことに、数週間前、米政府に対する返済プランを発表することができました。引き続き、FRBNYに対する全額返済と、長期的には米国財務省によるAIG株の保有の終了に向けて進行中の取引を完了させるよう積極的なプランを実行していきます。FRBNY与信枠の全額返済により、9月30日時点で47億ドルとなっている前払い委託資産の前倒し償却が発生します。10月29日には、マーク・タッカー氏の卓越したリーダーシップのもとAIAの新規株式公開を成功させました。また11月1日にはALICOの売却を完了しました。ロッド・マーティン氏の優れた指導力に感謝しており、彼の今後の活

動が成功することを祈っています。また、AGFの売却を年内に、2011年の早い段階にAIGスターならびにAIGエジソンの売却を完了させる見通しです。」

「重要なことですが、事業再編でこのような重要な進展を成し遂げる一方、AIGの継続事業に属する保険事業の業績は堅調です。第3四半期にチャーターティスならびにサンアメリカ・ファイナンシャル・グループは21億ドルの税引き前営業利益を計上しました。損害保険の市場の軟化や低金利環境にもかかわらず、これらの事業は市場でリーダーシップを取っており、規律を維持しています。引き続き、財務力と引受け規律の維持、効率性および透明性の改善、リスクとリターンのバランスの改善に重点をおいています。サンアメリカ・ファイナンシャル・グループは底堅い収益をあげており、超低金利環境で定額年金の販売は鈍化したものの、販売の勢いをうまく取り戻しています。」

「年内、AIGは以下の優先事項に重点を置きます。最終的な契約書作成の完了、資本強化に関する基本合意についての正式契約の締結とその取引の執行、進行中の売却取引の完了、ALICO売却にあたって受領した証券の現金化計画の実行、AIAの追加株式の現金化計画の策定、ナンシャン売却に向けた選択肢の追求、AIGFPのエクスポージャーの縮小の継続です。ただし最も重要なことは、引き続きAIGの継続事業の安定化、強化を図ることです。」

#### **AIGの安定化ならびにAIGの債務返済に向けた経営陣の戦略の進捗状況**

2008年9月より、AIGは主要事業の価値を維持・向上させ、秩序ある資産売却計画を実行し、将来的な事業価値を認識しました。AIGは、流動性と資本の柔軟性を維持しながら価値の最大化を図るために、継続的にこの計画を見直しています。

#### **資本強化計画：**

- 2010年9月30日、AIGは米国財務省、FRBNYおよびAIGクレジット・ファシリティ・トラスト（トラスト）と、米国納税者に対する負債を全て返済するよう策定された資本強化取引（資本強化）に関する基本合意に至ったことを発表しました。このプランの内容は、FRBNYと信枠の返済および終了、AIAならびにALICOを保有する特別目的会社（SPV）の優先持分の買い取りと交換、AIGのシリーズG優先株式の発行、シリーズC、E、F優先株式のAIG普通株式との交換です。基本合意においては、この資本強化が2011年第1四半期末までに完了する予定となっております。
- 2010年9月30日時点で、AIGのFRBNYの与信枠からの正味借入残高は143億ドル、未払利息および手数料は62億ドル、利用可能残額は149億ドルでした。
- 2010年9月30日時点で、米国財務省のシリーズFの優先株式に関連したコミットメント枠による利用可能残額は223億ドルでした。

#### **事業売却および特定の資産の処分：**

##### *AIAの新規株式公開：*

- 2010年10月29日、AIGはAIA株80.8億株の新規株式公開を完了し、総収入は約205.1億ドルとなりました。これにより、AIGのAIA発行済み株式の保有比率はおよそ33%となりました。したがって、2010年第4四半期にAIGは、AIAを財務報告の連結対象から外します。
- AIAの新規株式公開による純現金収入は、資本強化に関する基本合意に基づく取引が完了するまでエスクロー・ファンドで保有されます。この取引完了時点で、収入はFRBNYと信枠の返済に充てられる見通しです。将来のAIA株式の追加売り出しによる収入は、資本強化の取引完了にあたって米国財務省が保有する予定であるSPV優先持ち分の償還に充てられる見通しです。

*ALICO の売却：*

- 2010年11月1日、ALICOならびにデラウェア・アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニーのメットライフ・インク（メットライフ）への売却が完了しました。72億ドルの現金および残額分のメットライフの株式で取引されました。取引完了時点での売却額の公正価値はおよそ162億ドルでした。
- ALICO の売却による純現金収入は、資本強化取引が完了するまでエスクロー・ファンドで保有されます。この取引完了時点で、収入はFRBNY与信枠の返済に充てられる見通しです。さらにAIGは、市場環境に従い長期的にメットライフの株式を現金化し、資本強化の取引完了にあたって米国財務省が保有する予定のSPV優先持ち分の償還に充てるつもりです。

*AGF：*

- 2010年8月10日、AIGはAGF持分の80%を1.25億ドルで売却することで最終合意に達しました。この取引の結果、AIGは2010年第3四半期に見積り税引き前損失、約19億ドルを計上しました。この取引は、規制当局の承認および通常の見込みです。

*AIG スターならびに AIG エジソン：*

- 2010年9月29日、AIGは米国プルデンシャル・ファイナンシャルと、日本で生命保険事業を展開する子会社、AIGスターならびにAIGエジソンの売却に関して最終合意に達しました。売却金額は合計48億ドルから、取引完了日のAIGスターならびにAIGエジソンの債務残高を差し引いた金額となります。2010年9月30日現在、債務残高は約6億ドルでした。この売却に関連して、AIGは2010年第3四半期に税引き前のれん代減損費用13億ドルを計上しました。この取引は、規制当局の承認および通常の見込みです。

#####

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####



## 将来情報に関する警告的記述

この財務報告には、1995年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測および見解が含まれている場合があります。これらの予測および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関するAIGの考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実でAIGが制御できないものです。これらの予測および見解は、FRBNY、米国財務省、AIGクレジット・ファシリティ・トラストとの資本再編に関する基本合意による取引完了の結果、処分の件数、規模、条件、費用、収益、処分の時期と、これらがAIGの事業、財務状況、業績、キャッシュフロー、流動性に及ぼし得る影響（AIGはいかなる時でも、随時、1つまたは複数の事業の売却計画を変更することがあります）、AIGの資産売却プログラムの結果に左右される長期的な事業構成、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場に対するAIGのエクスポージャー、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、そして顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関するAIGの戦略などを考慮に入れることがあります。AIGの実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIGの実際の業績が、特定の見解や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、資本再編に関する基本合意による取引の失敗、世界的な信用市場の動向、および2010年3月31日末、2010年6月30日末、2010年9月30日末のAIGのフォーム10-Qによる四半期報告書の、パートI項目2（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」）、パートII項目1A（「リスク要因」）、ならびに2009年12月31日期末の年度についてのAIGのフォーム10-Kによる年度報告書の、パートI項目2（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」）、パートI項目1A（「リスク要因」）などで取り上げられている事項などがあります。AIGは、書面また口頭にかかわらず、見解やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

## AIGについて

AIGグループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130以上の国・地域で事業展開しています。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業もAIGグループの世界的な事業となっています。持ち株会社AIG, Inc.の株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されています。

#####

## 規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースには、一部、非 GAAP 型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト(<http://www.aig.com/>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2010 年第 3 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他のの方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によっては、AIG は市場の混乱に伴う事項、金融受け皿会社留保分、売却の影響、FRBNY の与信枠に関連した金利および分割償還、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、ALICO U.K.の投資型商品、シリーズ C 優先株の転換、実現キャピタル・ゲイン（ロス）、変動持分事業体の影響、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動、のれん代の減損の影響、税金評価引当金、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、UGC 業績、異常災害関連損失や外国為替レートの影響ならびに富士海上火災の株式取得に関連するバーゲン・パーチェス・ゲインも示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、事業利益（損失）を示すことは、投資家の皆様にとって有益なだけでなく、損害保険事業の結果を理解していただくために非常に重要となる財務情報を提供することになると考えています。損害保険会社の営業利益は、事業利益（損失）、正味投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）という 3 つの要素を含んでいます。事業利益（損失）の開示がなければ、保険会社が中核的事业活動でどれほど成功を収めているのか、あるいは、引受けリスクはどうかを判断することは不可能です。事業利益（損失）の情報を開示せずに、投資利益と正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）を営業利益に含めた場合には、引受損失を覆い隠してしまう可能性があります。正味投資利益額は、引受結果と全く関係のない、金利やその他の要素の変化が原動力となる場合があります。

事業利益（損失）は、損害保険事業の業績を判断するのに AIG の上級経営幹部が用いている重要な測定基準で、保険業界において業績の標準的な測定基準として用いられています。さらに、同じ理由から、AIG を追跡している証券アナリストも、分析の際は実現資本取引は除いており、当社に対し、GAAP 情報以外の情報の提供を常に要請してきています。

AIG は、保険当局により定められている、もしくは認められている会計原則に従って生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預り金およびその他の収入）、総収入保険料、正味収入保険料およびコンバインド・レシオを示していますが、これは、これらの会計原則が保険業界で使用されている業績の標準的な測定方法であるため、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由によるものです。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト\*  
(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2010年	2009年(a)	増減(%)	2010年	2009年(a)	増減(%)
<b>損害保険事業：</b>						
正味収入保険料	\$ 8,598	\$ 8,072	6.5 %	\$ 24,034	\$ 23,724	1.3 %
正味既経過保険料	8,597	7,936	8.3	23,971	24,231	(1.1)
事業利益 (損失)	65	(414)	-	(285)	8	-
正味投資利益	1,007	1,133	(11.1)	3,191	2,437	30.9
正味実現キャピタル・ロス調整前利益および バーゲン・パーチェス・ゲイン	1,072	719	49.1	2,906	2,445	18.9
正味実現キャピタル・ロス (b)	(207)	(37)	-	(12)	(682)	-
バーゲン・パーチェス・ゲイン (c)	-	-	-	332	-	-
<b>税引き前利益</b>	<b>865</b>	<b>682</b>	<b>26.8</b>	<b>3,226</b>	<b>1,763</b>	<b>83.0</b>
損害率	71.1	75.5		71.5	71.9	
経費率	28.2	29.7		29.7	28.1	
コンバインド・レシオ	99.3	105.2		101.2	100.0	
<b>北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業：</b>						
収入保険料およびその他の売上	1,268	1,277	(0.7)	3,898	4,048	(3.7)
正味投資利益	2,656	2,739	(3.0)	7,991	6,890	16.0
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前利益	978	1,207	(19.0)	3,155	1,301	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	20	(1,429)	-	(1,742)	(3,150)	-
<b>税引き前利益 (損失)</b>	<b>998</b>	<b>(222)</b>	<b>-</b>	<b>1,413</b>	<b>(1,849)</b>	<b>-</b>
<b>北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業：</b>						
収入保険料およびその他の売上	2,559	2,232	14.7	7,387	6,693	10.4
正味投資利益	1,305	1,297	0.6	2,918	3,908	(25.3)
正味実現キャピタル・ゲイン調整前利益	534	409	30.6	1,705	1,115	52.9
正味実現キャピタル・ゲイン (b)	157	122	28.7	386	202	91.1
<b>税引き前利益</b>	<b>691</b>	<b>531</b>	<b>30.1</b>	<b>2,091</b>	<b>1,317</b>	<b>58.8</b>
<b>金融サービス事業：</b>						
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動および正味実現キャ ピタル・ゲイン (ロス) を除く税引き前の営業利益 (損失)	(81)	1,238	-	(227)	1,439	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動 (b)	-	(3)	-	-	3	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	(8)	(85)	-	(40)	90	-
<b>税引き前利益 (損失)</b>	<b>(89)</b>	<b>1,150</b>	<b>-</b>	<b>(267)</b>	<b>1,532</b>	<b>-</b>
正味実現キャピタル・ロス、事業売却の純利益 (損失)、および会社間連 結・消去調整前のその他の項目	(1,892)	(1,310)	-	(3,278)	(7,286)	-
その他の正味実現キャピタル・ロス (b)	(618)	(869)	-	(287)	(547)	-
事業売却の純利益 (損失)	4	(885)	-	126	(1,192)	-
会社間連結・消去調整 (b)(d)	463	406	14.0	774	438	76.7
<b>継続事業のタックス・エクスペンズ (ベネフィット) 調整前利益 (損失)</b>	<b>422</b>	<b>(517)</b>	<b>-</b>	<b>3,798</b>	<b>(5,824)</b>	<b>-</b>
タックス・エクスペンズ (ベネフィット)	469	(408)	-	1,044	(1,510)	-
<b>継続事業の純利益 (損失)</b>	<b>(47)</b>	<b>(109)</b>	<b>-</b>	<b>2,754</b>	<b>(4,314)</b>	<b>-</b>
<b>非継続事業の純利益 (損失)、税引き後</b>	<b>(1,844)</b>	<b>94</b>	<b>-</b>	<b>(4,329)</b>	<b>1,011</b>	<b>-</b>
<b>純損失</b>	<b>(1,891)</b>	<b>(15)</b>	<b>-</b>	<b>(1,575)</b>	<b>(3,303)</b>	<b>-</b>
<b>控除：</b>						
<b>非支配的持ち分に帰属する継続事業の純利益 (損失)：</b>						
FRBNY が保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先 順位の高い、および優先順位の低い受益権	388	-	-	1,415	-	-
その他	104	(496)	-	243	(1,271)	-
<b>非支配的持ち分に帰属する継続事業の利益 (損失)</b>	<b>492</b>	<b>(496)</b>	<b>-</b>	<b>1,658</b>	<b>(1,271)</b>	<b>-</b>
非支配的持ち分に帰属する非継続事業の利益	12	26	(53.8)	35	44	(20.5)
<b>AIG に帰属する純利益 (損失)</b>	<b>(2,395)</b>	<b>455</b>	<b>-</b>	<b>(3,268)</b>	<b>(2,076)</b>	<b>-</b>
<b>AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)</b>	<b>\$ (2,395)</b>	<b>\$ 92</b>	<b>-</b>	<b>\$ (662)</b>	<b>\$ (3,371)</b>	<b>-</b>

## 財務ハイライト (続き)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2010年	2009年(a)	増減(%)	2010年	2009年(a)	増減(%)
<b>AIG に帰属する純利益 (損失)</b>	\$ (2,395)	\$ 455	- %	\$ (3,268)	\$ (2,076)	- %
AIG に帰属する非継続事業の利益 (損失)、税引き後	(1,856)	68	-	(4,364)	967	-
事業売却の純利益 (損失)、税引き後	4	(773)	-	21	(928)	-
正味実現キャピタル・ロス、税引き後	(464)	(798)	-	(1,177)	(3,590)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益 (損失)、税引き後	121	335 (63.9)		(88)	923	-
バーゲン・パーチェス・ゲイン	-	-	-	332	-	-
<b>AIG に帰属する調整後純利益 (損失)</b>	\$ (200)	\$ 1,623	-	\$ 2,008	\$ 552	-
<b>普通株式1株当たり利益 (損失) - 希薄化後:</b>						
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	\$ (17.62)	\$ 0.68	-	\$ (4.88)	\$ (24.92)	-
AIG 普通株主に帰属する調整後純利益 (損失)	\$ (1.47)	\$ 2.42	-	\$ 2.99	\$ (0.82)	-
AIG 株主資本の普通株式1株当たり帳簿価額 (e)				\$ 598.22	\$ 540.19	10.7
AIG 株主資本の見積普通株式1株当たり帳簿価額 (f)				\$ 48.24	\$ 43.73	10.3
平均発行済み株式 - 希薄化後	135.9	135.5		135.9	135.3	

### 財務ハイライト特記事項

\* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- 特定の勘定は、2010年度の表示に合わせるため2009年度の結果では再分類されています。
- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- 2010年9月30日に終了した9ヶ月間には、富士火災の取得に関連して3.32億ドルのバーゲン・パーチェス・ゲインを計上し、2010年第3四半期に7,400万ドルの調整を反映させました。AIGは、この期間を含む財務情報の比較対象として、2010年3月31日に終了した3ヶ月間の業績を遡及的に修正します。北米外損害保険事業は、2010年第3四半期より富士火災の業績を連結対象としました。
- 連結されている特定のAIGが管理しているパートナーシップ、プライベート・エクイティおよび不動産ファンドからの利益 (損失) を含んでいます。これらの利益 (損失) は、継続事業の利益 (損失) の構成要素ではない、非支配的持ち分に帰属する継続事業の純利益 (損失) の中で相殺されています。
- AIG株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- 発行済みエクイティ・ユニットおよびシリーズC、E、Fの優先株に関するAIG株主資本を調整して算出した見積普通株式1株当たり簿価額を示します。